

# きじむんの どう〜ちゅいむに〜 古文書入門編

## 第9回: デジタルアーカイブにみる衣装・布(紅型)

キーワード: 冠服・紅型



ぐすーよー、ちゅーからしわーしなとーいびーしが、ゆるっとどうーちゅいむにー読でいうたびみそーれ!(みなさま、今日から師走となりましたが、ゆっくりどうーちゅいむにーを読んでくださいませ!)。今月は、古文書にみる衣装・布についてのお話ですよ。

### ●琉球の冠服

右の図①②は、森嶋中良『琉球談』(1790 仲原善忠文庫)に掲載された冠服です。「里之子」とあるのは、江戸立のときの楽童子の衣装です(①)。楽童子は、髪はカタカシラ(欹髻)に簪、衣装はケーシクビ(返し衿)に袖口のあいた広袖の長衣を着ています。国王はウサンモー(烏紗帽)をかぶり、龍紋の入った中国風のトウーウイショー(唐御衣装)に帯・鞋を着用しています(②)。『琉球国来聘記』(1832 頃 伊波普猷文庫)によると、衣服を方言で「キン」(チン)と表記しています(③)。

図①②

仲原善忠文庫No.129

PP. 13-14 ⇒



### ●布(紅型)



左の図④⑤は、伊波普猷『紅型 古琉球』(1928 伊波普猷文庫)所収の資料です。④は、紅型の実物裂地(木綿製)です。型染めの技術を用いた色鮮やかな模様は、古典柄とよばれるもの。

⑤は桐、鳳凰、牡丹をモチーフにした衣装です。④⑤とも木綿布に模様を描いたものです。

図③伊波普猷文庫No.036 P.21⇒



紅型は、18世紀頃には現在の様式になったとされ、王族・士族の礼服、冊封使歓迎の宴席で演じられる御冠船躍の衣装として着用されました。身分や年齢によって模様の大きさや種類、地色の違いがありました。

みなさま、今月は個性的で華やかな琉球の冠服や紅型の布について、デジタルアーカイブの中から紹介してみました。楽しんでいただけましたか?

紹介した画像は、琉球大学附属図書館のデジタルアーカイブでご覧いただけます!興味のあるかた、ぜひのぞいてみて下さいね~(NK)

参考文献:伊波普猷「古琉球紅型解題」『紅型 古琉球』巧藝社 1928//森嶋中良『琉球ばなし 上下』申椒堂 1790/国立国語研究所『沖縄語辞典』大蔵省 1983

↑  
伊波普猷文庫No.099  
P.6 (図④) / P.9 (図⑤)

紅型の画像はここからみれますよ~

紅型 古琉球

